

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

ボイラー（熱源）の更新による
温室効果ガス削減事業

排出削減事業者名：ジャスマックプラザ株式会社

排出削減事業共同実施者名：公益財団法人 北海道環境財団

その他関連事業者名：

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	ジャスマックプラザ株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	ジャスマックプラザホテル
住所	〒064-8533 北海道札幌市中央区南7条西3丁目
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	公益財団法人 北海道環境財団

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

「ボイラー（熱源）の更新による温室効果ガス削減事業」

2.2 排出削減事業の目的

高効率のガスボイラーへの設備更新と、A重油から天然ガスへの燃料転換により、二酸化炭素排出量を削減する。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

現在使用中のA重油ボイラーを高効率天然ガスボイラーへ更新することで、ボイラーの高効率化と、二酸化炭素排出量の削減を図る。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

特記事項無し。

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2008年12月1日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年4月1日 ～ 2016年8月31日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新
004	空調設備の更新

4.2 活動量

排出削減事業が活動量指標を採用している場合、排出削減事業計画5項に沿って記載。

4.2.1 活動量・原単位

本削減事業においては、活動量・原単位は用いない。

4.2.2 活動量の採用根拠

本削減事業においては、活動量・原単位は用いない。

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは、更新する天然ガスボイラーから温水の供給を受ける設備並びに吸収冷温水機による空調システムにより空調が行われる範囲である。

5 モニタリング対象指標

【001】ボイラーの更新

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、) 変更理由
$F_{fuel,PJ}$	事業実施後(燃料転換後)燃料の使用量	千 Nm3	本館 854 新館 817	・ガスメーターの検針データを 集計し、Nm3 に換算する (換算係数：本館 0.975 ：新館 0.984)	変更無し
$HV_{fuel,PJ}$	事業実施後(燃料転換後)燃料の単位発熱量	GJ/千 Nm3	45.0	・燃料供給会社の値を利用	変更無し
ε_{BL}	事業実施前(燃料転換前)ボイラー効率	%	本館 86.5 新館 86.6	・カタログ値より算出	変更無し
ε_{PJ}	事業実施後(燃料転換後)ボイラー効率	%	本館 82.1 新館 82.3	・カタログ値より算出	変更無し
$CF_{fuel,BL}$	事業実施前(燃料転換前)燃料の単位発熱量あたりの炭素排出係数	tCO2/GJ	0.0708	・J クレジット制度のデフォルト値を利用	変更無し
$CF_{fuel,PJ}$	事業実施後(燃料転換後)燃料の単位発熱量あたりの二酸化炭素排出係数	tCO2/GJ	0.0509	・燃料供給会社の値を利用	変更無し

【004】空調設備の更新

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、) 変更理由
$F_{fuel,PJ}$	事業実施後(燃料転換後)燃料の使用量	千 Nm3	冷房 458 暖房 547	・ガスメーターの検針データを 集計し、Nm3 に換算する (換算係数：0.975) ・冷房期を 5～9 月、暖房期を 10～4 月とする	変更無し
$HV_{fuel,PJ}$	事業実施後(燃料転換後)燃料の単位発熱量	GJ/千 Nm3	45.0	・燃料供給会社の値を利用	変更無し
ε_{BL}	事業実施前(燃料転換前)空調設備効率	%	冷房 106.6 暖房 85.3	・カタログ値より算出	変更無し
ε_{PJ}	事業実施後(燃料転換後)空調設備効率	%	冷房 101.2 暖房 80.9	・カタログ値より算出	変更無し
$CF_{fuel,BL}$	事業実施前(燃料転換前)燃料の単位発熱量あたりの炭素排出係数	tCO2/GJ	0.0708	・J クレジット制度のデフォルト値を利用	変更無し
$CF_{fuel,PJ}$	事業実施後(燃料転換後)燃料の単位発熱量あたりの二酸化炭素排出係数	tCO2/GJ	0.0509	・燃料供給会社の値を利用	変更無し

6 排出削減量の計算

【001】ボイラーの更新

6.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
本館 854(千 Nm ³)	45.0 (GJ/千 Nm ³)	0.0509 (tCO ₂ /GJ)	1,956.1 (tCO ₂)
新館 817 (千 Nm ³)	45.0 (GJ/千 Nm ³)	0.0509 (tCO ₂ /GJ)	1,871.3 (tCO ₂)
EM _{PJ}			3,827.4 (tCO ₂)

6.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
本館 36,475 (GJ)	—	0.0708 (tCO ₂ /GJ)	2,582.4 (tCO ₂)
新館 34,939 (GJ)	—	0.0708 (tCO ₂ /GJ)	2,473.7 (tCO ₂)
EM _{BL}			5,056.1 (tCO ₂)

6.3 リークージ排出量

LE	0.0 (tCO ₂)
----	-------------------------

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM _{BL}	5,056.1 (tCO ₂)
事業実施後排出量 (7.1)	EM _{PJ}	3,827.4 (tCO ₂)
リークージ排出量 (7.3)	LE	0.0 (tCO ₂)
温室効果ガス排出削減量	ER	1,228 (tCO ₂)

【004】空調設備の更新

7.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
冷房 458(千 Nm3)	45.0 (GJ/千 Nm3)	0.0509 (tCO2/GJ)	1,049.0 (tCO2)
暖房 547 (千 Nm3)	45.0 (GJ/千 Nm3)	0.0509 (tCO2/GJ)	1,252.9 (tCO2)
EM _{PJ}			2,301.9 (tCO2)

7.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
冷房 19,566 (GJ)	—	0.0708 (tCO2/GJ)	1,385.3 (tCO2)
暖房 23,345 (GJ)	—	0.0708 (tCO2/GJ)	1,652.8 (tCO2)
EM _{BL}			3,038.1 (tCO2)

7.3 リークージ排出量

LE	0.0 (tCO2)
----	------------

7.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	<i>EM_{BL}</i>	3,038.1 (tCO2)
事業実施後排出量 (7.1)	<i>EM_{PJ}</i>	2,301.9 (tCO2)
リークージ排出量 (7.3)	<i>LE</i>	0.0 (tCO2)
温室効果ガス排出削減量	<i>ER</i>	736 (tCO2)

【合計】

$$1,228 \text{ (tCO2)} + 736 \text{ (tCO2)} = 1,964 \text{ (tCO2)}$$

8 省エネルギー量

【001】ボイラーの更新

原油換算 (k1)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン - 実績 (①-②)
1,842.5	1,940.0	-97.5

【004】空調設備の更新

原油換算 (k1)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン - 実績 (①-②)
1,107.1	1,168.8	-59.7

9 再生可能エネルギー利用量

該当項目無し。